

方向性2 子どもの学びと成長を支える人や環境づくり

施策2-1 安心・安全に学べる居場所の充実

ポイント

- 心理的安全性と他者と豊かな関わりのある居場所が学びを支える
- 学校生活に多様な困難を抱える子どもへの対応
- 互いの違いを認め、尊重し合える学校づくり
- 学校外の多様な学びの機会の確保



1 施策の方向性

- 子どもの健全な成長と学びを支えるためには、安心・安全に学べる居場所が不可欠です。ここでいう「居場所」とは、単なる物理的な空間ではなく、心理的に安全な環境の中で、他者と豊かな関わりをもちながら、自己肯定感をはぐくみ、落ち着いて学びに向かうことができる環境をさします。居場所が確保されてこそ、自信と意欲をもって学びに向かうことができるのです。
- 現在、様々な理由で学校生活に困難を感じている児童・生徒がいます。悩みを抱えて学校に行けない、学校には来ているもののどこか元気がない、病気で登校できないなど、それぞれ異なる形でしんどい思いをしている児童・生徒がいます。
- 学校では、違いを認め合い、互いに尊重し合える環境づくりをさらに推進することで、健全な発達を促し、児童・生徒の幸せにつながる場を一層充実させていきます。
- すべての子どもの幸せのかたちに寄り添い、学校以外の多様な学びの機会を確保し、子どもの自立をめざします。具体的には、個々にあった学習スタイルで学べるよう、学校における居場所づくりを人的体制も含めて拡充します。さらに、フリースクールなどの民間教育・学習機関との連携などを通して、多様な学びの場と機会の確保をめざします。
- 「学校に登校する」という結果のみを目標とせず、その子が抱える困難や課題に向き合います。長期的視点に立ち、その子にとっての最適な支援を、スクールカウンセラー（SC）³²やスクールソーシャルワーカー（SSW）³³などの専門人材とともに、学校や家庭、地域、関係機関と連携して行います。

32 臨床心理の専門的知識や経験を有する人材。児童・生徒の不安や悩みを受け止め、学校におけるカウンセリングや教育相談を担う。

33 教育分野に関する知識に加えて、社会福祉などの専門的な知識や技術を有する人材。関係機関と連携しながら、課題を抱えた子どものおかれた環境に働きかけを行い、問題解決に向けて支援を行う。

2 施策の成果指標

	項目	基準値	目標値	
		R7	中間 R12	最終 R17
1	学校内外で専門機関等の相談・指導等を受けている不登校児童・生徒の割合	74.1%	90%	95%
2	「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と思う児童・生徒の割合	66.4%	75%	80%

3 施策に連なる事業

NO	001	事業	多様な学びの場の確保・連携（指導室、教育支援センター、地域教育力推進課、生涯学習課、多様な学び推進担当課、生活支援課）		
内容	<p>教室以外の多様な学びの選択肢を確保するため、学校や地域、民間団体などの関係機関との連携の充実を図ります。各学校が、不登校対応ガイドラインを基に、不登校児童・生徒への支援の充実及び、専門機関を交えた登校支援会議の充実を図っていきます。また、すべての不登校児童・生徒が一人ひとりの状況に応じた必要な支援を受けられるように、全区立小・中学校で教室以外の居場所を設置し、充実を図ります。</p> <p>また、不登校児童・生徒の居場所として、板橋フレンドセンターを運営し、スタッフとの交流や体験活動を通じて、適応力や判断力をはぐくみ、社会的自立を支援します。区内大学と連携し、大学内にも不登校児童・生徒の居場所を整備します。</p> <p>あいキッズでは、放課後などの小学生の居場所として、地域との連携強化を図るための支援体制を構築し、地域人材の活用などによる体験・交流活動を行います。また、日中のあいキッズ室で不登校児などの居場所を提供します。</p> <p>さらに、地域の関係者と連携し、ジュニアリーダーなどの青少年に対し、野外活動・地域活動やスポーツ・文化芸術活動を通じた地域における学びの場を提供します。</p> <p>加えて、区民が、社会教育施設での相互学習やイベント企画・運営などに参加・参画できる機会及び環境を整え、誰もが自分に合った学びを選択できる包括的な生涯学習環境を実現します。さらに、学校・家庭以外の居場所づくりも推進し、関係機関・団体と連携して、子どもの学習支援や多世代交流などを支援します。</p>				
年度別計画	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
	①不登校児童・生徒一人ひとりの支援につなげるための、全区立学校における教室以外の居場所の設置及び、居場所の充実 ②板橋フレンドセンターの運営における活動内容の	①不登校児童・生徒一人ひとりの支援につなげるための、全区立学校における教室以外の居場所の設置及び、居場所の充実 ②板橋フレンドセンターの運営における活動内容の	①不登校児童・生徒一人ひとりの支援につなげるための、全区立学校における教室以外の居場所の設置及び、居場所の充実 ②板橋フレンドセンターの運営における活動内容の		

年度 別 計画	充実及び児童・生徒が利用 しやすい環境の整備 ③大学と連携した居場所推 進事業の継続・充実 ④あいキッズにおける総合 コーディネーターの導入 ⑤あいキッズにおける地域 サポーター事業の内容・回 数の充実（10校） ⑥あいキッズ室で不登校児 などの居場所を提供（10 校） ⑦ジュニアリーダーの育成、 活躍機会の拡大 ⑧地区青健活動実施 ⑨全区的な青健事業の開催 （親子たこあげ大会・少年 野球親善大会・板橋音楽 祭） ⑩i-youth運営 ⑪子どもの学習・生活支援事 業実施 ⑫子どもの食・居場所支援事 業実施	充実及び児童・生徒が利用 しやすい環境の整備 ③大学と連携した居場所推 進事業の継続・充実 ④あいキッズにおける総合 コーディネーターの導入 ⑤あいキッズにおける地域 サポーター事業の内容・回 数の充実（20校） ⑥あいキッズ室で不登校児 などの居場所を提供（20 校） ⑦ジュニアリーダーの育成、 活躍機会の拡大 ⑧地区青健活動実施 ⑨全区的な青健事業の開催 （親子たこあげ大会・少年 野球親善大会・板橋音楽 祭） ⑩i-youth運営 ⑪子どもの学習・生活支援事 業の実施 ⑫子どもの食・居場所支援事 業の実施	充実及び児童・生徒が利用 しやすい環境の整備 ③大学と連携した居場所推 進事業の継続・充実 ④あいキッズにおける総合 コーディネーターの導入 ⑤あいキッズにおける地域 サポーター事業の内容・回 数の充実（30校） ⑥あいキッズ室で不登校児 などの居場所を提供（30 校） ⑦ジュニアリーダーの育成、 活躍機会の拡大 ⑧地区青健活動実施 ⑨全区的な青健事業の開催 （親子たこあげ大会・少年 野球親善大会・板橋音楽 祭） ⑩i-youth運営 ⑪子どもの学習・生活支援事 業実施 ⑫子どもの食・居場所支援事 業実施
---------------	--	--	--

NO	002	事業	総合的な教育相談体制の整備・充実（教育支援センター、指導室、支援課）		
内容	<p>様々な課題を抱える児童・生徒及び保護者に対し、心理・教育・福祉などの専門的な立場から関係機関と連携し、課題解決や環境改善に向けた支援を行うため中学校にSSWを配置し、教育支援センターにて特別支援教育相談、心理言語相談、学校相談を実施します。</p> <p>また、不登校児童・生徒向けに、保護者交流会、高校説明会を開催します。</p> <p>さらに、子どもや保護者、子育て関係者向けに、子ども自身の悩みや子育ての不安・悩みなどについて、24時間365日相談できる電話相談や、365日対応のLINE相談を行います。</p>				
年度	令和8年度		令和9年度		令和10年度
別 計画	<p>①SSWの配置の継続及び拡充の検討。</p> <p>②教育相談事業（特別支援教育相談、心理・言語・学校相談）の安定した体制の整備</p> <p>③不登校対策（不登校生徒向け高校学校説明会、不登校児童生徒保護者交流会）継続。</p> <p>④子どもなんでも相談・親子のための相談LINE実施</p>				

コラム⑥：多様な学びの場の確保・連携をめざして

（1）すべての子どもに寄り添う多様な学び —板橋区の不登校支援—

近年、不登校の児童・生徒数は全国的に増加し、板橋区でもわずか5年で約2.3倍に増え、令和5年度には1,000人を越えました。不登校については「学校に登校すること」だけを最終目標とせず、子ども一人ひとりが自分らしく成長し、将来豊かな人生を歩むことを大切にしています。

不登校は単に「学校に行かない」という現象ではなく、子どもが抱える不安や人間関係、体調など多様な背景があります。そのため支援のあり方も、子ども一人ひとりの課題に寄り添い、社会的に自立することをめざした支援へと変化しています。学校内に教室以外の居場所や板橋フレンドセンター（適応指導教室）、区内大学内に子どもの居場所を用意し、大学生と一緒に活動することや仮想空間によるオンライン支援など、子どもが安心感をもちながら自分のペースで活動できるよう多様な居場所を整備しています。こうした居場所は、安心して自分らしく過ごすだけでなく、興味関心を広げたり、人と関わる経験を重ねたりする場となっています。

また、学校にはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーといった専門職が配置され、心のケアや家庭、地域、関係機関とのつなぎ役を担っています。子どもに寄り添う多様な人材が関わることで、子どもは自分に合った関係性を築きやすくなり、自己肯定感を取り戻していきます。不登校支援は、さまざまな居場所や人材が連携して、子ども一人ひとりの未来への歩みを支えています。

（2）安心して過ごせる居場所 ～一人ひとりの自己決定を大切に～

不登校は、特定の子どもに特有の問題があることによって起こるものではなく、どの子どもにも起こり得るものです。板橋区では、児童・生徒一人ひとりの状況に応じたきめ細かな支援のさらなる充実をめざしています。

支援の充実に向けた取組の一つが、校内における安心して過ごせる居場所づくりです。この居場所では、児童・生徒自身の自己決定を大切にしており、児童・生徒が自分の興味・関心に応じて学習内容や学習方法を決めて、自分のペースで学んだり、時には、ほっと息を抜いて友達とリラックスして過ごしたりしています。



居場所は、学校の中にあります。自分の学校内に居場所があることで、友達や先生方と関わる機会をもつことができ、「教室に入りたい。」と思ったときに教室に向かうこともできます。

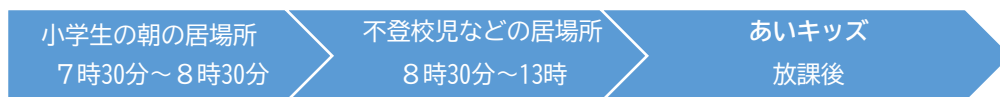


各学校では、学校や児童・生徒の実態に応じて、様々な創意工夫を凝らして居場所づくりを行っています。板橋区では、多様な背景を抱える不登校の児童・生徒一人ひとりが、安心して過ごせる居場所づくりを、これからも続けていきます。

(3) あいキッズが生まれ変わります

令和10年度に、あいキッズは20周年を迎えます。これからのあいキッズは、子どもが安心・安全に過ごせるだけでなく、「つながり、学び、成長する」喜びを感じられる居場所となることをめざしています。地域の方々と一緒に行う体験活動などを中心に、子どもの意見も積極的に取り入れ、楽しく・学べる・充実した放課後になるよう取り組んでいきます。また、あいキッズが学校敷地内にある強みを活かして、あいキッズは「一日の居場所」へと変わります。

◎一日の流れ（学校運営日）



◎あいキッズでは、地域との連携を強化し、地域サポーター事業をより充実させていきます。



地域サポーター事業とは？

あいキッズが地域（板橋区内に限らず）の個人や団体との連携による多様で魅力的なイベント・プログラムの実施を通じて、体験・交流の機会を提供し、子どもがつながり、学び、成長する喜びを実感できるようにする事業。

【例】上板橋第四小学校あいキッズの運営

地域サポーター事業による本格的な定期プログラムとして、ドッジボール、フットサル、習字、大江戸ダンスなどを行っています。



※あいキッズの各取組は、次の箇所に掲載。小学生の朝の居場所は施策1-5（68ページ）、不登校児などの居場所は施策2-1（71ページ）、あいキッズは施策2-1、2-4（71、86ページ）。